

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	モモの家		
○保護者評価実施期間	R7年12月25日		R8年1月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	R8年2月19日		年月日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月2日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者同伴での通園であり、集団・個別指導全般において、子どもの状態や支援・相談事など保護者との共有やその場での対応がしやすい。	保護者からの情報や相談は職員間で共有し、必要に応じて対応可能な職員が速やかに対応できるよう努めている。活動や課題のねらい、または子どもの変化や成長などを直接その場で保護者に伝えて共有したり、支援の方法について共に考え、家庭でも実践できそうな具体策を提案するなど、保護者のサポートに繋がるよう努めている。	必要に応じて面談の時間を積極的に設けるなど、保護者のニーズに合った伝え方や対応方法を考慮する。支援の具体策は職員間での共有を積み重ね、事業所としての質を高める。
2	職員数が少ないためコミュニケーションがとりやすく、支援や業務に関する様々なことを共有し、連携しやすい。	日々の打ち合わせや支援会議など全職員参加で行っている。支援中は、速やかに共有したほうが良いと思われる子どもの様子や保護者からの話などは口頭で周知できるよう意識している。	引き続き職員間の情報共有や連携に努め、支援の質の向上に努める。
3	館内に市の保健センターがあることや、保育園・こども園や各関係機関との会議への参加を通し、福祉・教育関係機関とのネットワークがあること。	保健師から見学児の希望について直接連絡を受けることができるため、見学調整をスムーズに行い、保護者の方の希望に沿って早めの支援開始に繋がられるようにしている。関係機関の方を講師とした保護者向け学習会を行うなど、ネットワークを活用した保護者支援を行っている。	今後も連携を深めながら支援に生かしていけるよう努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	各種危機管理体制(例、避難訓練には職員のみ参加)の整備や利用者への周知が不十分である。	避難訓練に関しては、同法人内の一部署という位置付での療育時間外での参加であり、内容の再検討が行えていない。その他についても内容の検討が不十分なまま形骸化している。	次年度の施設移転に伴い、各種内容の再整備を行うとともに、職員間での共有徹底と利用者への周知を行う。
2	家族支援として、保護者同士の交流やきょうだい支援が行えていない。	日々の療育の中では保護者同士の会話や交流が生まれるよう配慮をしているが、事業計画の中でイベントなど具体的な支援策を立てていない。	保護者のニーズも踏まえて、事業計画の中に保護者交流会やきょうだい支援に関するイベントを盛り込む。
3	内部研修、外部研修を含めて研修の機会が多くない。	職員数が限られており、業務時間内の外部研修への参加は最小限にとどまっている。職員研修日は会議等に充てることが主で、計画的な研修が十分に行えなかった。	職員の希望や事業所として必要な内容を踏まえた研修計画を検討していく。